

アカデミア・アニマリウム 第3回「屠体給餌プロジェクト」報告会を開催します！

千葉市動物公園では、動物たちの生活の質の向上と千葉県が抱える有害鳥獣問題への理解促進のため、「屠体給餌プロジェクト」を立ち上げ、令和3年に実施したクラウドファンディングにおいて、たくさんの方々からご賛同と多大なご支援をいただきました。

このたび、第3回「屠体給餌プロジェクト」報告会として、“屠体給餌”についての研究検証の発表と、有害鳥獣問題に関する啓発を目的に、各種取り組みについての講演を実施しますので、お知らせします。

1 開催日程

令和5年11月12日（日）

2 会場

千葉市動物公園 動物科学館1階
レクチャールーム

3 参加費

無料（別途入園料は必要）

4 席数

各回150人（先着順）

5 時間割・発表者・演題



ライオンの屠体給餌の様子



アカデミア・アニマリウム ロゴ

時間	発表者（敬称略）	演題
10:00～ 10:15	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 学生	なぜ野生動物が増えたのか？（イノシシプログラム）
10:30～ 10:55	千葉市動物公園 教育普及啓発員 <small>ひらた あやこ</small> 平田 絢子	千葉市動物公園の屠体給餌プロジェクト経過
10:55～ 11:45	日本大学生物資源科学部動物学科 教授 <small>ほそや ただつぐ</small> 細谷 忠嗣	と体給餌コンソーシアムの取り組みについて
13:00～ 13:15	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 学生	なぜ野生動物が増えたのか？（シカプログラム）
13:30～ 14:00	ALSOK 千葉株式会社 ジビエ工房茂原 施設長 <small>こじま さかえ</small> 小嶋 栄 解体師 <small>たかやま よしはる</small> 高山 良治	なぜ ALSOK が、ジビエ事業を始めたのか？
14:00～ 14:20	豊橋総合動植物公園 動物研究員 <small>ばん かずゆき</small> 伴 和幸	（研究報告）と体は衛生的と言えるのか？ ～細菌数を調べてみた～

14:30～ 15:00	千葉市動物公園 研究員 <small>なかやま ゆう</small> 中山 侑	(研究報告) 野生動物由来の屠体肉の栄養評価
15:00～ 15:30	東邦大学大学院理学研究科 修士課程 学生 東邦大学理学部生物学科 准教授 <small>いのうえ えいじ</small> 井上 英治	(研究報告) 屠体給餌がライオンとブチハイエナの行動に及ぼす影響

4 その他

今回の報告会に合わせ、屠体給餌の意義や目的、関連する諸課題等を紹介した動画をYouTubeで配信します。

動画	URL	QRコード
ライオン編	https://youtu.be/QL3XQx8sI0s	
ハイエナ編	https://youtu.be/dJ-xgwms0m0	

<参考>

1 アカデミア・アニマリウムとは

千葉市動物公園では、自己研鑽としての「調査・研究」、伝え、教える活動としての「教育普及」を要の機能と位置づけるとともに、当園単独の活動のみならず、さまざまな学校、研究・学術団体、企業とも連携して行う、包括的な「調査・研究」、「教育普及」を「アカデミア・アニマリウム」(令和2年～)と称し、推進しています。

2 屠体給餌プロジェクトについて

令和3年 7月 屠体給餌の実施費用をクラウドファンディングで募集開始

令和3年 9月 募集した支援金で屠体給餌および調査研究を開始

令和4年11月 第1回「屠体給餌プロジェクト」報告会を実施

令和5年 5月 第2回「屠体給餌プロジェクト」報告会を実施

令和5年 6月 「と体給餌利用促進事業コンソーシアム」に参画

【令和3年に実施したクラウドファンディングの特設ページ URL】

<https://camp-fire.jp/projects/view/436648>



3 と体給餌利用促進事業コンソーシアムとは

農林水産省「本愛玩動物用飼料原料等利用促進事業(と体給餌利用促進事業)」により屠体給餌利用促進の目的で設立されたコンソーシアムで、現在8機関が参画。

<参画機関>

日本大学生物資源科学部、国立研究開発法人森林研究・整備機構、豊橋総合動植物公園、千葉市動物公園、中部大学応用生物学部、株式会社糸島ジビエ研究所、学校法人酪農学園、札幌市円山動物園